

20/9/18 名古屋市議会 本会議(名古屋城部分)

(名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

次に、浅井正仁くんにお許しいたします。

浅井正仁くん。

それでは議長のお許しをいただきましたので通告に従い順次質問させていただきます。

**浅井正仁（自民・中川区）：**

次に、名古屋城天守閣の木造復元についてであります。

先日、文化庁に行って、ミスターXさんと会ってまいりました。

いろんな意見を交換してきましたが、その中で名古屋城天守閣の木造復元事業も、このところずっと低迷していますねと。

今頃ならば、本当だったら、天守閣の解体工事ぐらいは始まっていたのかもしれませんがと冗談か本気かわからないようなお話をされました。

振り返れば、私も平成30年度から8回の本会議質問委員会などを通じて石垣の保全や復元天守閣の基礎構造等いくつかの課題や問題点をしてきましたが、明確な答弁をいただけないまま時間が過ぎたという印象です。

真実に忠実な復元にこだわって床に穴をあけるエレベーターを設置しないという反面、耐震ダンパーの設置や階段の増設、さらには電気工事などしっかり予定されている等だけど、史実に忠実という範囲がなんとも曖昧だと感じています。

また、3月には重大な文化財の毀損事故やコロナウイルス感染症の拡大もありましたが、確かに迷走していなければ、こうした予期できない事態が起こっても現在の天守閣の解体工事が始まっていたかもしれません。

では一体、どうして迷走してしまったのでしょうか。

市長さん、市長さんはよく高齢者の方から自分たちが生きているうちに木造に復元された天守閣が見たいという声を聞くとされていますね、実際私もタイちゃんというおばあさんから給付金国の給付金10万円をもらったと。その10万円を私は寄附すると、どこに寄附するんだと言ったら、名古屋城に寄附するんだと、早く見たいからだと言ったこといただきました。

それでね私も2022年の完成が2028年の完成と6年に延びたことを本当にかっかりしています。なので、また28年の完成も実は不可能でしたと再度がかっかりさせないための先だつての新聞等がありましたということがありまして、質問させていただきたいと思います。さて前回の本会議等で木造天守閣復元に当たっては、その基礎構造として、いわゆる跳ね出し工法が断念されました。

そして先日、基礎構造の検討のための調整会議を立ち上げ、今年度中に木造復元の基本構想をまとめる他、文化庁からの宿題にも対応して現行計画から6ヶ月遅れの来年4月に文

文化庁に報告を行うとの報道がありました。

これは今から跳ね出し工法に関わる基礎構造や史跡価値を高める整備のあり方などについて議論して基本構想としてまとめ、年度内には全体整備検討会議を経て、文化庁に基本構想と文化庁からの宿題と併せて提出するということだと思えます。

私は当局から跳ね出し工法に代わる基礎構造はまだ決まっておらず、さらに史跡価値も高めるという考え方の整理もまだこれからと聞いていましたので、年度内に基本構想をまとめて文化庁に提出するのは難しいと印象を持っていました。

しかし、議会には何の説明もなく、局長さんのコメントまで掲載されて新聞に工程表が公表されたわけですから、必ずや勝算があつてのことと思えますので、議会としても考え方をお聞きしたいと思えます。

これは昨年2月に出された工程表であります。

この工程表でいくと2028年の10月に完成しております。新聞報道によると、これは6ヶ月遅れるということは、2009年の4月に2029年の4月になるという計算になります。なぜならば先ほど言ったコロナ、毀損等があつてそもそものこの出足が遅れているからであります。そこで質問させていただきますが、報道によればスケジュールが半年遅れるとのことでしたので、先に示されていた完成時期を2028年10月ごろから半年遅れになる、つまり現状では2029年2月ぐらいから4月ぐらいになるとの認識でよろしいでしょうか。観光文化交流局長さんにお尋ねします。

また、跳ね出し工法断念以降、文化財である石垣の保全と史実に忠実な復元という、いわば両輪を満たす基礎構造を踏まえた基本構想を年度末迄にまとめると言われてますので、ほぼ新たな工法もまとまりつつあると思えますので、その工法の具体的内容についての概要を観光文化局文化交流局長さんにお伺いします。

なお、文化庁からも再三にわたり名古屋城の史跡価値が高まるような天守復元整備であることが必要との指摘を受けていると思えますが、基本構想では史跡価値が高まる整備のあり方もまとめていく必要があると思えます。

そこで、観光文化交流局長さんが考える史跡価値を高める整備についてお答えください。次に名古屋城のバリアフリー対策についてであります。バリアフリー対策について、エレベーターを設置せず、新技術で対応するとの方針が示されていますがこの議論には、障害者団体を始めとした関係者そして文化庁は参画しているのでしょうか。いささか疑問です。名古屋城では新技術について、国際コンペも考えているようですがその前に、こうした関係団体や国としっかり協議する必要があると思えますがご見解をお伺いして、第1回目の質問を終わります。

**松雄観光文化交流局長：**

名古屋城天守閣木造復元について、4点のお尋ねをいただきました。まず初めに2028年完成の遅れに対する認識でございます。

現在地元の有識者に諮っております手順と工程に基づきますと、新型コロナウイルス感染症拡大への影響や移りの毀損事故への対応を最優先としていましたことから、当初の予定より6ヶ月程度の遅れが生じております。

文化庁からの指摘事項に対する調査、検討を年度内に終了させ、来年4月に追加情報として回答したいと考えております。

そして5月の文化審議会で一定のご理解を得ることができれば復元検討委員会にお諮りいただける状況が整うことになろうかと考えておりますので、これ以上の遅れが生じることのないようにスケジュールを死守してまいりたいと考えております。

次に跳ね出し工法に代わる基礎構造の検討状況についてでございます。

現在戦後天守閣再建時の工事記録や他城郭の整備事例などを踏まえ、天守地下の穴蔵部分に現代工法を取り入れることにより、天守台石垣に荷重を負担させず、石垣等遺構の保存ができる手法とすることとし、その上で、史実に忠実な復元ができるように検討を進めているところでございます。

基礎構造は、この事業の中で最も重要な部分であり、その確定までには相当の期間を要すると考えておりますことから、現時点では具体的な検討案をお示しすることはできません。今後は石垣埋蔵文化財部会と天守閣部会の両方に関連する事項でありますことから、基礎構造の具体的な検討を着実に進める体制となる調整会議を設置し、できるだけ早く検討案をまとめ、文化庁および地元有識者にお諮りしご指導を賜り、基礎構造の確定に向けて議論を重ねてまいりたいと考えております。

次に特別史跡名古屋城跡の価値を高める木造復元についての認識についてでございます。

復元する木造天守は天守台石垣遺構の保存を前提とした上で、豊富な史資料や記録を基にした調査研究を踏まえて外観のみならず、内部空間、使用する材料や構造に至るまで、可能な限り史実に忠実に復元し、さらには復元する木造天守と一体となって足元にそびえる天守台石垣や、先に復元しました本丸御殿とあわせて、近世期の名古屋城本丸を実感できる歴史的、文化的空間を再現してまいりたいと考えております。

このように整備することで、特別史跡名古屋城跡の本質的価値のより深い理解を促すとともに、名古屋城の文化面および観光面における魅力を向上させるものとして、特別史跡の価値をより一層高めることになるものと考えているところでございます。

最後に昇降技術の公募の実施方法についてでございます。

障害者団体の方々等は、令和元年度以降、大小はございますが150回以上にわたり、本市の公募の考え方について丁寧な説明と情報の共有に努めてきたところでございます。

今年度、衆議院の国土交通委員会におきまして、名古屋城天守閣木造復元事業のバリアフリーについての質疑が交わされ、文化庁の政府参考人が復元建造物については、施設の所有管理者において、文化財の特性に応じて具体的かつ適切に判断されていくことが重要であるとの政府の見解が述べられ、また、バリアフリーを改正の付帯決議におきまして障害者等の参画のもと、検討が行われるよう必要な措置を講ずることと決意をされるなど、国

におきましても、歴史的建造物を再現する場合のバリアフリーの整備のあり方について議論がなされ、名古屋城の対応に注目が集まっていると認識しているところでございます。こうしたことから、バリアフリー整備につきましては、これまでに国と相談をいたしておりませんでしたので、速やかに文化庁に出向き、本市のバリアフリー整備の検討の経緯と、考え方をご説明した上で、文化庁の考え方やご意見を伺いながら、齟齬が生じないように、また障害者団体等の方々とも、引き続き協議を重ね、適切に対応してまいりたいと考えております。以上でございます。

**浅井正仁（自民・中川区）：**

答弁ありがとうございました。

**浅井正仁（自民・中川区）：**

そして観光文化交流局長さんに再質問をさせていただきます。

文化庁の関係者からは焼失前の天守閣は本物。そして再建された現在の天守閣も本物。では今後、復元を目指す木造天守閣はどのような位置づけにしていくのか明確な説明が必要とのご意見をいただいております。

先ほどの答弁も含めて今後のスケジュールを冷静に考えると、史跡価値を高める整備の検討もこれから、具体的なバリアフリーの検討もこれから、基礎構造の調整会議や基本構想策定もこれから、文化庁からの宿題も大半がこれから。そしてそれらが全て終わった後に文化庁と復元する木造天守の位置付けなどについて調整して5月の文化審議会で審議を願うということになると思います。

本当にこれで大丈夫かなと思うのですが、局長さんが死守すると言われたので、是非とも死守していただきたいと思っております。ところで現在の天守閣ものを築城からすでに60年を超え老朽化も進んでおり、外壁などもいたるところでひび割れが起っています。

木造天守閣の復元まではまだ何年もあるかもしれません。観覧者の安全と文化財の保護の観点から外壁の補修をすべきだと考えますが、観光文化交流局長さんの考えをお聞かせください。

またコロナウイルス感染症による影響で名古屋城の入場者が激減していると思いますが、昨年比でどの程度減少しているのか、観光文化交流局長さんにお尋ねします。

なお、こうした状況でも復元する木造天守閣は入場料収入で行い、総額505億で行うという考えに変わりはありませんか。これも観光文化交流局長さん、お答えください。

**松雄観光文化交流局長：**

名古屋城天守閣の木造復元に関連いたしまして再度のご質問をいただきました。

まず最初に、現天守閣の外壁の補修についてでございます。

現天守閣の外壁を目視点検する中で、ひび割れが生じ美観を損ねているという認識は持つ

ておりますが、直ちに観覧者への影響が出る状況にはございませんので、安全確保に留意しつつ経過観察をしているところでございます。

しかしながら、ただいま議員ご指摘がありました通り、観覧者の安全を最優先に考え、観覧者が直下を通行しております大天守閣の東面につきまして、外壁の浮きの有無を調べる赤外線調査を早急に実施し、必要に応じまして適切な観覧者の安全対策を実施してまいります。

次に天守閣木造復元事業のスケジュールの財源でございます。

名古屋城の入場者数は、平成29年度に約190万人、平成30年度に約220万人と増加傾向にある中、令和元年度も前年度を上回るペースで入場者数を伸ばしてはりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により約200万人となったところでございます。

そして今年度4月から8月までの前年同月比を申し上げますと、約9割の減少と、議員ご指摘の通り激減している状況でございます。

厳しい状況ではありますが、木造天守閣復元事業は、事業費505億円でいい、市民の皆様の税金ではなく、名古屋城に親しみ、楽しんでいただくための入場の収入で賄っていくという考えに変わりはありません。

また収支計画につきましては、現在地元有識者に諮っております手順と工程が確定しましたら、市としての竣工時期を定め、その上でこれまでの入場者数や入場料の考え方に基づく収支計画を定めたいと考えております。以上でございます。

#### 浅井正仁（自民・中川区）：

答弁ありがとうございます。それでは市長さん、それから松雄局長をよーく聞いていただきたいと思えます。

ええ、完成時期については、以前本会議で2028年10月から延びることもあれば縮まることもあると答弁されました。

市長さんに気を遣ってか遠まわしな今日は答弁でしたが、要するに5月の文化審議会に提出するということは6ヶ月延びたということだと思います。

さて、先ほどから観光文化交流局長さんの答弁を聞いていてずっと迷走している原因が、私ははっきりわかったように思えてなりません。

先日、特別委員会がありました。教育委員会が所管する歴史の里志段味古墳群の整備が議論されましたが、この歴史の里は文化庁をはじめ関わった委員の方々も、文化財の保護と活用を両立させて史跡価値を高めた成功例だと言っておられます。

一方で、先ほどの局長さんの答弁には名古屋城の史跡価値を天守台石垣の保全と木造天守閣の復元で高めていくとの見解がありました。

これこそが、迷走の大きな一つです。

歴史の里から学ぶべきことがあると思えます。名古屋城の史跡価値を高める上で一番大切な前提を忘れてる。

文化庁のミスターXさんが名古屋市に一番欠けていることを私に教えてくれました。

名古屋城の史跡価値を高めるためには、石垣庭園、本丸御殿、天守閣それぞれの保全や復元の時代設定さらに付帯する茶室や、藩主の対露などといった史実等を含めて、単に天守閣などを木としてみるのではなく、名古屋城という森全体を見渡して、それぞれの木をプロデュースしていくことが必要だと言われました。

ミスターXさんは、要は今の名古屋城は木を見て森を見ず、つまり本物が一番優れているということを忘れずに哲学を持って史跡、名古屋城全体をプロデュースした文化財の保全と復元の考え方が欠けていると指摘がありました。

そのために石垣部会や庭園部会、そして天守閣部会といった専門家の皆さん、そして文化庁のご意見をきちんとお聞きになって、名古屋城全体の史跡価値を高める保全、整備、復元のあり方を議論することが必要であると思います。

そして次に基礎構造の検討においては、史実に忠実と文化財の保全この双方を両立することが求められていますが、この検討が先ほどの答弁でもまだ相当の時間を要するとのことでした。

この基礎構造の検討が全く進んでいないのが、迷走をしている原因の二つ目です。

文化庁では天守閣などの復元について先日、新たに復元的整備という考えが示されました。この意味をよく考えれば自ずと答えは出るはずですが、これまでの前提にとらわれず、ドラスティックな基礎構造の議論をすることをお勧めいたします。

そして、バリアフリーの検討ですが、先ほど局長さんは150回も丁寧な説明をしたと言われましたが、150回といえは1年の半分ですよ。

そして、いまだに障害者団体の方からはどんな返事ももらっていない、ましてや文化庁には1回も相談がいないね、これが迷走している原因の3点目ですよ。

ここまで私が話を聴いてきたのは半分程度です。

親切丁寧に、文化庁のミスターXさんは私に教えてくれました。

これは基本構想をまとめる鍵とも言えますが、この鍵を開けて迷走状態から抜け出したいだけというのを私は切に願っています。

名古屋城はすることはたくさんあります。

この他にも搦手の調査、庭園の調査、内堀、御深井丸そして文化庁が一番怪訝に思っている毀損事故。この毀損事故に対する名古屋市の対応はとにかく遅いと。これはいまだかつてない毀損だぞと言われました。

私が丁寧にやっているからいいんじゃないのと言いましたら、毀損したら1日も早く原状回復させるのがこれが原則だと何故なら毀損部分は風や雨によって土の形状や状態がどんどん悪くなるから時間がたてばたつほど現状から遠のいてしまうとも言われ、私も納得いたしました。こうした問題を全て今の名古屋城の職員で解決して、5月の文化審議会に議論していただける資料が本当に出せるのでしょうか。

そこで市長さん、質問させていただきたいと思います。

私が文化庁に行った際、天守閣の木造復元について今頃は元天守閣の解体ぐらいは始まっているもおかしくなかったという声もありました。

どこで何を間違えたのか、とにかく迷走したことで市長さん、そして多くの市民の夢が遠のいてしまった。

市長さん何度も言いますが、私は木造復元に反対しているわけではありません。

これまで8回に及ぶ私の本会議の質問を見返していただければ、むしろずっとずっと私、応援してるんですよ。私の言ってきた通りになってるじゃないですか。市長そう思いませんか。

そこで市長さんにお聞きしますが、先ほど局長さんは積み上げた完成年数は死守するという趣旨の答弁をされましたが、明確に完成時期は答えてないです。

実際は2028年10月プラス6ヶ月で2029年の2月を死守するのか、あるいは完成時期にはとらわれず、木造復元することを死守するのか、いずれにしても2028年より前の完成はあり得ないということなのか。

市長お答え願いたいと思いますが、市長さん迷う城と書いて迷城とならないように明確にお答え願いたいと思います。

#### 河村市長：

いつできるかということについては厳密に言いますと質問通告がなかったもんですから。

今僕の感覚で答えれるとここで答えますが、今局長が言いましたようにですね、そのスケジュールでやってくということでございます。文化庁からはとにかく進めましょうと、ただ学者の皆さんとはみんな合意してやってくださいねと。

それともう一つあったのはやっぱり初めてなんだとこれだけの復元、歴史的建造物の復元はお城はたくさんありますけれども、そんな中でその第1号が名古屋城になったと。

国宝一号の城ですからこれ、だで丁寧な上にも丁寧にこれだけお願いしますわということをおっしゃっておりますんで、その線で地道にやると。地道じゃないけど精力的にやるとということでございます。

#### 浅井正仁（自民・中川区）：

市長の答弁は2年前と何も変わらないと、文化庁と一緒にやりましょうと言ってくれた。確かに市長には言ったのかも知れない。

言っとるって言ったって私たちは聞いてないから。

それでね、市長先ほど私がいろいろ縷々大きな枠で三つにとらえました。

これがなければ文化審議会でも出せない、その後の復元検討にも出せない。

今日の本会議は多分文化庁の方も見てます市長さんの言う完成時期は明確には言わなかった。本当に迷っているのかなと思う。

それではね市長、文化庁と、そして、石垣部会の方、そして天守部会もあれば庭園部会も

あるね一番大事なのは城全体を見るということ。

これをね今日は局長と一緒に酒のつまみで、2人で議論していただきたいと思います。そして最後に、市長さんに半沢直樹の一言を送って私、終了させていただきます。

正しいことを正しいと言えること。

組織の常識と世間の常識が一致していること。

今日は局長さんと2人でしっかりと議論して迷った城ではなく、令和の名君となれるように、1日も早い名古屋城、市民が望んでいる名古屋城を早く造っていただけるようにしっかりと頑張ってくださいをお・ね・が・い・し・ま・す。

以上。